



府食第1046号

平成17年10月26日

食品安全委員会

委員長 寺田 雅昭 殿

遺伝子組換え食品等専門調査会

座長 早川 堯夫

遺伝子組換え食品等に係る食品健康影響評価に関する審議結果について

平成16年12月3日付け厚生労働省発食安第1203001号をもって厚生労働大臣から食品安全委員会に対し意見を求められた「除草剤グリホサート耐性及びコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON88017 系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON810 系統を掛け合わせた品種」（日本モンサント株式会社）の安全性についての審議結果を別添のとおり報告します。

## 遺伝子組換え食品等評価書

除草剤グリホサート耐性及びコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON88017 系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON810 系統を  
掛け合わせた品種

2005年10月

食品安全委員会 遺伝子組換え食品等専門調査会

〈審議の経緯〉

平成16年12月3日

平成16年12月9日

平成17年10月19日

平成17年10月26日

厚生労働大臣から遺伝子組換え食品等の安全性確認  
係る食品健康影響評価について要請、関係書類の接受  
第73回食品安全委員会（事項説明）  
第33回遺伝子組換え食品等専門調査会  
遺伝子組換え食品等専門調査会座長から食品安全委  
員会委員長へ報告

〈食品安全委員会委員〉

委員長 寺田雅昭  
委員長代理 寺尾允男  
小泉直子  
見上彪  
坂本元子  
中村靖彦  
本間清一

〈食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員〉

|      |       |       |
|------|-------|-------|
| 座長   | 早川堯夫  |       |
| 座長代理 | 澤田純一  |       |
|      | 五十君静信 | 手島玲子  |
|      | 池上幸江  | 丹生谷博  |
|      | 今井田克己 | 日野明寛  |
|      | 宇理須厚雄 | 室伏きみ子 |
|      | 小関良宏  | 山川隆   |
|      | 澁谷直人  | 山崎壮   |
|      |       | 渡邊雄一郎 |

「除草剤グリホサート耐性及びコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON88017 系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON810 系統を掛け合わせた品種」に係る食品健康影響評価に関する審議結果

申請品種名：「除草剤グリホサート耐性及びコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON88017 系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON810 系統を掛け合わせた品種」

性 質：除草剤グリホサート耐性、コウチュウ目及びチョウ目害虫抵抗性

申 請 者：日本モンサント株式会社

開 発 者：Monsanto Company（米国）

1. 申請品種の概要

申請品種については、除草剤耐性及び害虫抵抗性の形質が付与された 1 系統と害虫抵抗性の形質が付与された 1 系統を従来からの手法で掛け合わせたものである。掛け合わせる前の MON88017 系統、MON810 系統の各系統については、それぞれ安全性の評価は終了しており、いずれもヒトの健康を損なうおそれがあると認められないと判断されている。

2. 食品健康影響評価結果

- ① 挿入された遺伝子によって宿主の代謝系に影響なく、除草剤耐性、害虫抵抗性の形質が付与されている品種同士の掛け合わせである。

MON88017 系統に導入された改変型 *cry3Bb1* 遺伝子及び MON810 系統に導入された *cry1Ab* 遺伝子により産生される改変型 Cry3Bb1 タンパク質及び Cry1Ab タンパク質はいずれも酵素活性を持つことは報告されておらず、植物代謝経路に影響を及ぼすことはないとは判断される。

また、MON88017 系統に導入された *cp4 epsps* 遺伝子により産生される CP4 EPSPS (EPSPS: 5-エノールピルビルシキミ酸-3-リン酸合成酵素) タンパク質は、シキミ酸合成経路（芳香族アミノ酸合成経路）の律速酵素ではなく、EPSPS 活性が増大しても、本経路の最終産物である芳香族アミノ酸の濃度が高まることはないことから、その作用機作は独立しており、植物代謝経路に影響を及ぼすことはないとは判断される。

いずれの形質も、その作用機作は独立しており、MON88017 系統と MON810 系統の掛け合わせ品種において互いに影響し合わないと考えられる。

- ② 亜種レベル以上の交配ではない。

掛け合わせた品種は、亜種レベル以上の交配ではない。

- ③ 摂取量・食用部位・加工法に変更はない。

MON88017 系統と MON810 系統、及びそれらを掛け合わせた品種において、摂取量、食用としての使用部位、加工法等の利用目的ならびに利用方法に変更はない。

以上、①～③の結果から、「除草剤グリホサート耐性及びコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON88017 系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシ MON810 系統を掛け合わせた品種」については、「遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方」（平成 16 年 1 月 29 日 食品安全委員会決定）に基づき審査した結果、安全性の確認を必要とするものではないと判断される。